



わくわく園だより

文責：牧野喜充

ぴかぴかの1年生 パステルカラーのランドセルが黄色に変わる



小学校の入学式、加藤校長は、「みんな、返事がとても立派で、とても感心しました。」と言っていました。その後、真新しいランドセルを背負って、園に報告にやってきました。色とりどりの素敵なランドセルですが、翌日からは、交通安全の黄色のカバーをかけます。目立つように帽子も黄色です。福寿草も黄色、菜の花も黄色、春は黄色が多い。菜の花の花言葉は「小さな幸せ」、福寿草は「幸せを呼ぶ長寿」です。

卒園式では、「すいぶん大人になったなあ」と感じましたが、卒園式から2週間余り経ち、小学校に行くと2年生と比べると、まだまだ幼く感じます。入学式では、大人しく緊張気味だった子が、園に来ると急に態度が大きくなりました。園では、新5歳児さんが大きな顔をしています。

*小学校では、コドモンのようなシステム「テトル」が間もなく開始されます。

～～入園式の式辞から～～ 《悪魔の3歳児》



3歳児になると、これまで以上に、自己主張が強くなります。感情表現が豊かになります。何でも自分でやりたがります。体力や筋力も発達してきて、友だちとかかわりながら遊ぶようになります。ところが「悪魔の3歳児」とも言われています。着替えるとき「赤がいい!」「これは着たくない!」「こども園に行きたくない!」とぐずったりします。イヤイヤ期から反抗期に変わる頃でもあります。しかし、それも成長の証です。何も心配することはありません。先生方は、保育のプロですから、何でも相談してください。職員も頑張ります。保護者の皆さんもこれまで以上に「がんばってね!」

／＼これからの子育て／＼ 政府は、少子化対策（「こども誰でも通園制度」の保育費用）の財源として、被保険者1人あたり、年収400万円だと月650円、年収800万円だと月1350円と試算しました。この金額は高いのか安いのか、今後賃上げが進むと家計にそれほど負担をかける額ではないと言っています。



こども家庭庁が掲げる施策は、‘子どもを産んでも女性が働けるように、幼児施設に安心して預けられる。子育ては社会が担う’ということです。しかし、子育ての第一責任者は、親であることには変わりありません。

おむつを替えるとき、うんこを見て、体調の変化に気がきます。それを園の先生がします。また、最初に発する言葉、伝え歩きを目撃するのも保護者より、一日の大半を共にしている園の先生が先かもしれません。最近、イクメンのお父さんが子育てをする家庭が増えています。社会の仕組みそのものが変わろうとしています。しかし、「教育の第一歩は、母親の抱っこから始まる」と言います。どんなに先生が頑張っても、お母さんには敵いません。こども園の先生は、精一杯お手伝いをしますが、お母さんの代わりはできません。これからの子育ては、保護者とこども園の協同作業です。

子ども未来課の阿部蒼生さん(21歳)をお集まり会で紹介すると 5歳児女子が「きゃ～、イクメンだ!」



5歳児女子数人がゆうぎ室の窓から、阿部さんをアイドルの推しメンのように、「あべあおいさ～ん、こっち向いて、かっこいい!」キャーキャー名前を呼んでいました。その後、「園長先生がやきもち焼くから、園長先生も呼ぶか?」と言いました。